

## 南小たば風通信 2019

令和元年5月21日 第2号

## 第1回理論研究を終えて

運動会の特別時間割に入りました。子どもたちが自分の立てた目標に向かってがんばる機会となればいいですね。

さて、先週の三浦主査による理論研修への参加お疲れさまでした。「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた国語科の授業改善」というテーマで充実した研修になったのではないかと思います。

ポイントは、

- 単元など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと
- 指導事項を見極め、単元化を図ること → 具体的な評価につながります！
- 授業改善のために質の高い言語活動を位置づけること
- 系統性を国語科と他教科等の関連を図ること

です。解説（新指導要領）にも詳しく書かれていますので、確認しておきましょう。

また、先生方も悩むことが多い評価ですが、領域の重点化を図ることで評価しやすくなることもお話されました。これまでに取り組んできた「1単元1領域」を基本に単元の計画を立て、子どもたちの学習を見取っていくことが大切です。

あくまでも、評価の研究ではありませんので、授業改善を行う中で評価のポイントを考えていく必要があるということです。

詳しいことは、三浦主査からいただいた資料をご覧ください、わからないところは、全員で考えていきましょう。

## &lt;今週の理論研修について&gt;

お忙しい中ですが、明日（22日）15時30分より稲船研究部長による、「授業づくりのポイント『話したくなる』『考えたくなる』授業に変えていくために」というテーマで研修を行います。

昨年度参加された筑波大学附属小学校の研究会から、参考となる内容をみなさんに還元していただく内容です。お楽しみに！

## &lt;連絡&gt;

- 5月に児童アンケートを実施することになっています。昨年と同様の内容で実施しますので、各学級の都合のよい時間に行っていただければと思います。31日（金）までに実施し、山本まで提出してください。

